

背景と目的

森林・林業の政策の推進のため、効果的な普及啓発が必要

【普及啓発の必要性】

- ・森林整備や地域材利用の促進には、市民への普及啓発が重要
- ・特に子どもへの啓発が重要



【普及啓発の難しさ】

- ・森林や森林整備の重要性はよく知られていない
- ・地域材の購入までに至る困難さ
- ・学校教育で、林業は馴染みのない分野

実施内容

小学4年生の図工の時間に木材を用いる機会があることに着目し、木材に地域材を用いるとともに、授業後の啓発資料の作成などに北海道森林管理局と協力して取り組みました。

(1) 地域材で木工キットを製作

- ・札幌市有林の森林整備で生産したトドマツを使用
- ・地元で製材、加工（サプライチェーンの構築）



1人に配布するセット

※森林経営管理制度において産出する材も活用する方針とし、集積計画策定にむけた所有者の動機付けとする。

▽ 小学校に提供

(2) 小学4年生の図工の時間で使用

- ・子どもをターゲット
- ・小学校5年生の社会の授業（林業を学習）につながることを期待



先生は、授業で森林の説明不要

▽ 完成した作品とともにQRコード付きの作品名カードを家に持ち帰る

多忙な先生達の負担を増やさない企画

(3) 家で作品のQRコードを読み取って、普及啓発のデジタル絵本を視聴

- ・スマホ等使用において家庭内での大人への普及啓発も期待
- ・作品を飾ったり使用すれば、長い期間の普及啓発に

【分岐型の啓発デジタル絵本】

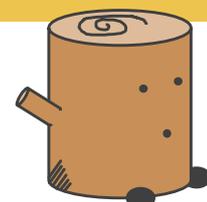
自分で分岐を選択しながら「作品の木がどこからきたのか」を探る全34ゴールの物語。5年生の授業に向け記憶や印象に残るよう、楽しさを重視。



今後の展開

本年度は事業構築の1年として、一部の小学校のみの実施でしたが、今後市内全ての小学校の4年生（約15,000人）に提供したい考えです。

また、啓発絵本は他都市でも活用することが可能ですので、森林環境譲与税を活用した取組として、他都市においても展開されることに期待します。



ザイクくん